

労働災害の現況

令和6年の概況

目次

1 労働災害の推移	……P1
2 月別の発生状況	……P2
3 業種別発生状況の推移	……P2
4 事故の型別発生状況の推移	……P3
5 起因物別発生状況の推移	……P3
6 事故の型・起因物別発生状況	……P4
7 年齢別発生状況	……P4
8 主要業種別経験年数別発生状況	……P5
9 主要業種別事故の型別発生状況	……P6



1 労働災害の推移

死傷者数は前年に比べ減少

(1) 死傷者数

令和6年に発生した労働災害による休業4日以上^{*}の死傷者数は、837人となり、令和5年よりも79人(8.6%)の減少となった。(労働者死傷病報告の集計による人数。以下同じ。)

しかしながら、新型コロナウイルス関連を除いた人数は758人であり、平成27年の560人から増加に転じた後、700人前後の状態が続いている。

表1 前年との対比

対 象 年	死傷者数 (休業4日以上)	*死傷者数 (休業4日以上) 新型コロナウイルス関連除く	前年との対比	
			増減	増減率(%)
令和2年	665	637	△ 75	△ 10.5
令和3年	785	721	84	13.2
令和4年	1,430	730	9	1.2
令和5年	916	683	△ 47	△ 6.4
令和6年	837	758	75	11.0

(2) 死亡者数

令和6年の労働災害による死亡者数は、前年の2人から2人増加して、4人となった。

業種別では、道路貨物運送業1件、金属製品製造業2件、畜産業1件であり、災害の概要としては、運送中の交通事故、天井クレーンで鉄骨を移動中に荷が落下、競走馬から振り落とされスタートゲートに激突、社用車で移動中の交通事故である。

図1 年別労働災害発生状況の推移

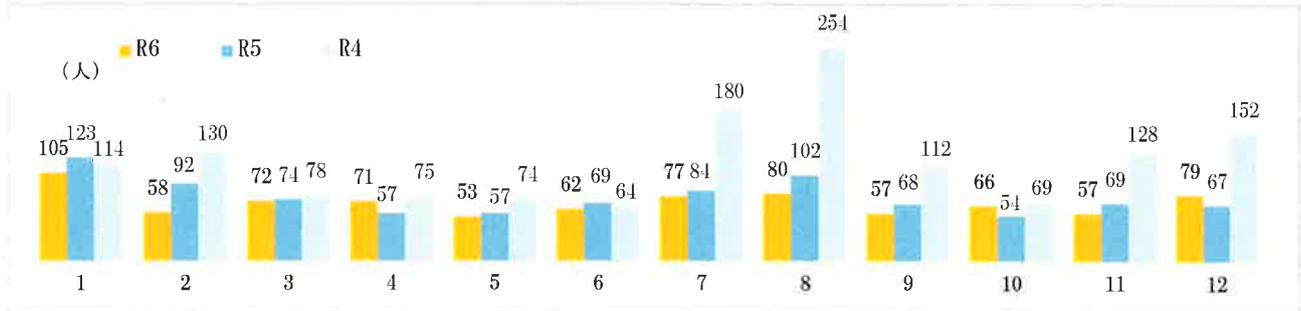


2 月別の発生状況

冬季の凍結等の影響による転倒災害が多く発生

月別の発生状況では、冬季の凍結等の影響による転倒災害が多く発生している。被災者は1月に15人となっている。

図2 月別労働災害発生状況の推移（年対比）



3 業種別発生状況の推移（以下コロナ関連を除く）

建設業、運輸交通業、商業において大きく増加

(1) 製造業

死傷者数は137人（全産業に占める比率は18.1%）となり、前年と比べて6人、4.6%増加した。業種中分類で細分化すると食料品製造では34人（前年と比べて5人、17.2%増加）、金属製品製造業では21人（前年と比べて3人、16.7%増加）、一般機械器具製造では20人（前年と比べて6人、23.1%減少）、輸送用機械では7人（前年と比べて1人、12.5%減少）となった。

(2) 建設業

死傷者数は78人（全産業に占める比率は10.3%）となり、前年と比べて20人、34.5%増加した。業種中分類で細分化すると、建築工事で52人（前年と比べて22人、73.3%増加）、内木造家屋建築業は15人、土木工事で18人（前年と比べて3人、20.0%増加）となった。

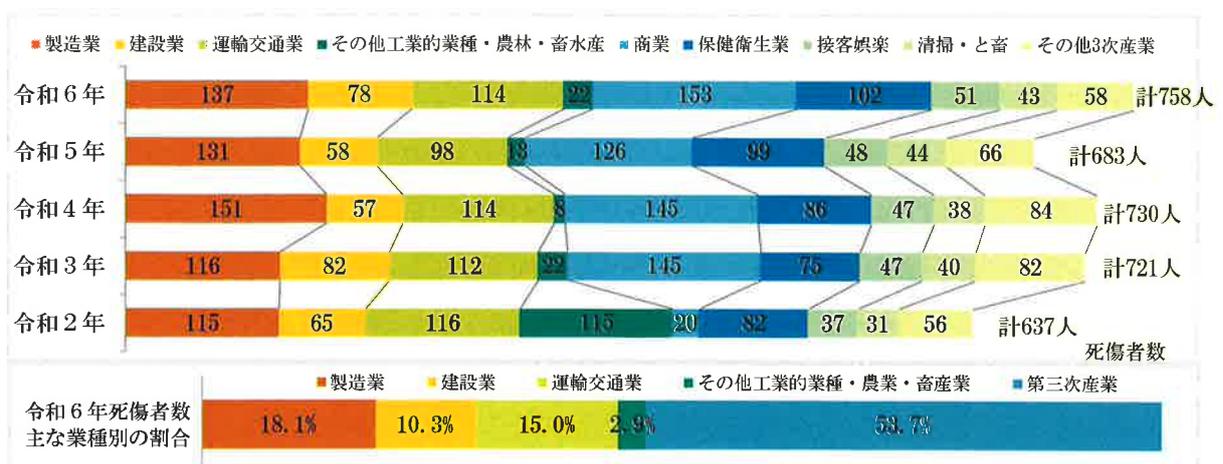
(3) 運輸交通業

死傷者数は114人（全産業に占める比率は15.0%）となり、前年と比べて16人、16.3%増加し

(4) 第三次産業

死傷者数は407人となり、前年と比べて24人、6.3%増加した。一方で全産業に占める第三次産業の死傷者数の割合は53.7%と4年連続で50%を超えた。業種中分類で細分化すると商業で153人（前年と比べて27人、21.4%増加）、保健衛生業では102人（前年と比べて3人、3.0%増加）となり、過去5年間で最も多くなった。

図3 業種別の発生状況の推移



4 事故の型別発生状況の推移（以下コロナ関連を除く）

「転倒」「墜落・転落」災害が多発

事故の型別では、通路、作業床等における「転倒」災害の死傷者数が206人（全体に占める比率27.2%）と比率は減少しており最も多い。次いで高所や階段等からの「墜落・転落」災害が163人（同21.5%）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」が94人（同12.4%）、「はさまれ・巻き込まれ」が72人（9.5%）となった。

また、転倒災害のうち作業床に起因するものは111人で前年と比べて72人増加し、転倒災害の53.9%を占めている、なお、環境（雪、凍結等）を起因とするものは、17人で前年と比べて1人増加した。

図4 事故の型別災害発生状況の推移

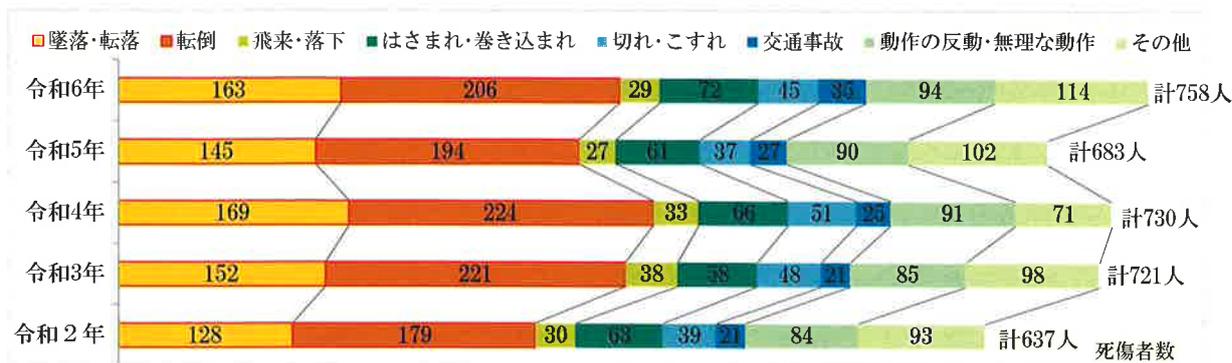
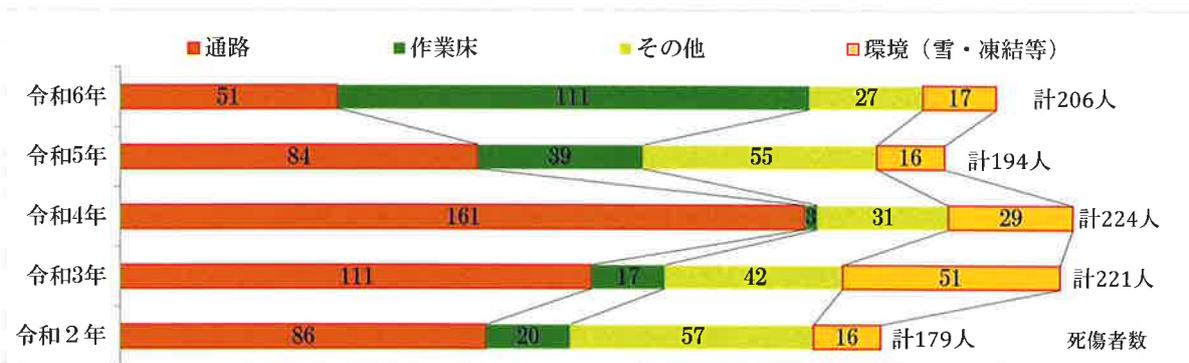


図5 転倒災害の起因物別の発生状況の推移



5 起因物別発生状況の推移（以下コロナ関連を除く）

階段、通路、作業床等の仮設物・建築物等を起因とする災害が増加

起因物別では、階段、通路、作業床等の「仮設物・建築物等」が264人（前年と比べて44人、20.0%増加）と最も多く、クレーン、トラック、乗用車などを含む「クレーン等、運搬機械」が115人（前年と比べて11人、10.6%増加）、はしご、人力運搬機、手工具を含む「装置、用具等」が111人（前年と比べて16人、12.6%減少）、食品加工用機械、その他の一般動力機械などを含む「動力機械」が68人（前年と比べて15人、28.3%増加）となった。

図6 起因物別の発生状況の推移

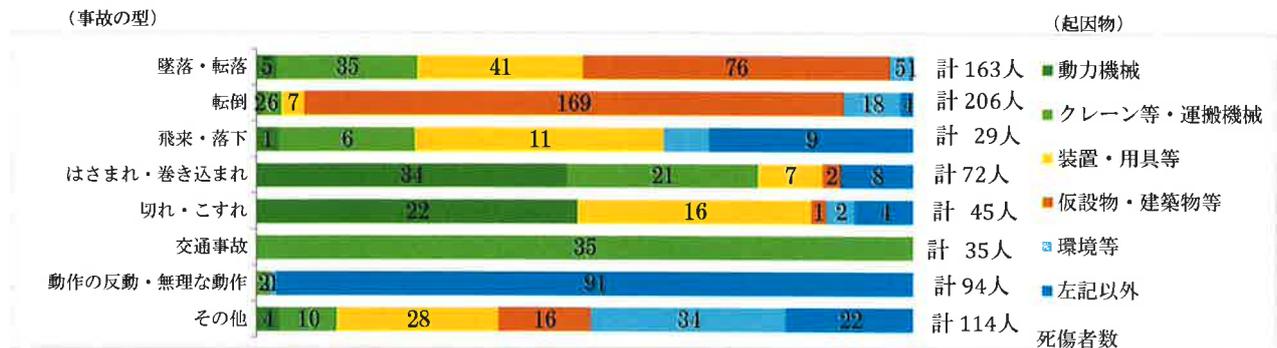


6 事故の型・起因物別発生状況（以下コロナ関連を除く）

最も死傷者数が多い「転倒」災害では、作業床、通路などを含む「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが169人となり、「墜落・転落」災害でも「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが76人となっている。この2つの事故の型の「仮設物、建築物、構築物」の合計は245人となり、コロナ関連を除く全体の比率は、32.3%を占める。

この他、「動作の反動・無理な動作」災害の「起因物なし」等が91人、「墜落・転落」災害のはしご等の「装置・用具」が41人、トラックを含む「動力運搬機」に起因するものが35人、「はさまれ・巻き込まれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が34人、「切れ・こすれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が22人となった。

図7 事故の型・起因物別発生状況、発生割合（100%積み上げグラフ）



7 年齢別発生状況（以下コロナ関連を除く）

「50歳以上」の死傷者数は、合計439人となり、前年と比べて40人、10.0%増加し、全体の割合は57.9%となった。業種別では、運輸交通業、商業、保健衛生業、清掃・と畜業において、50歳以上の死傷者数の占める割合が50%を超えており、特に清掃・と畜業においては50歳以上の割合が74.4%となった。

図8 年齢別発生状況

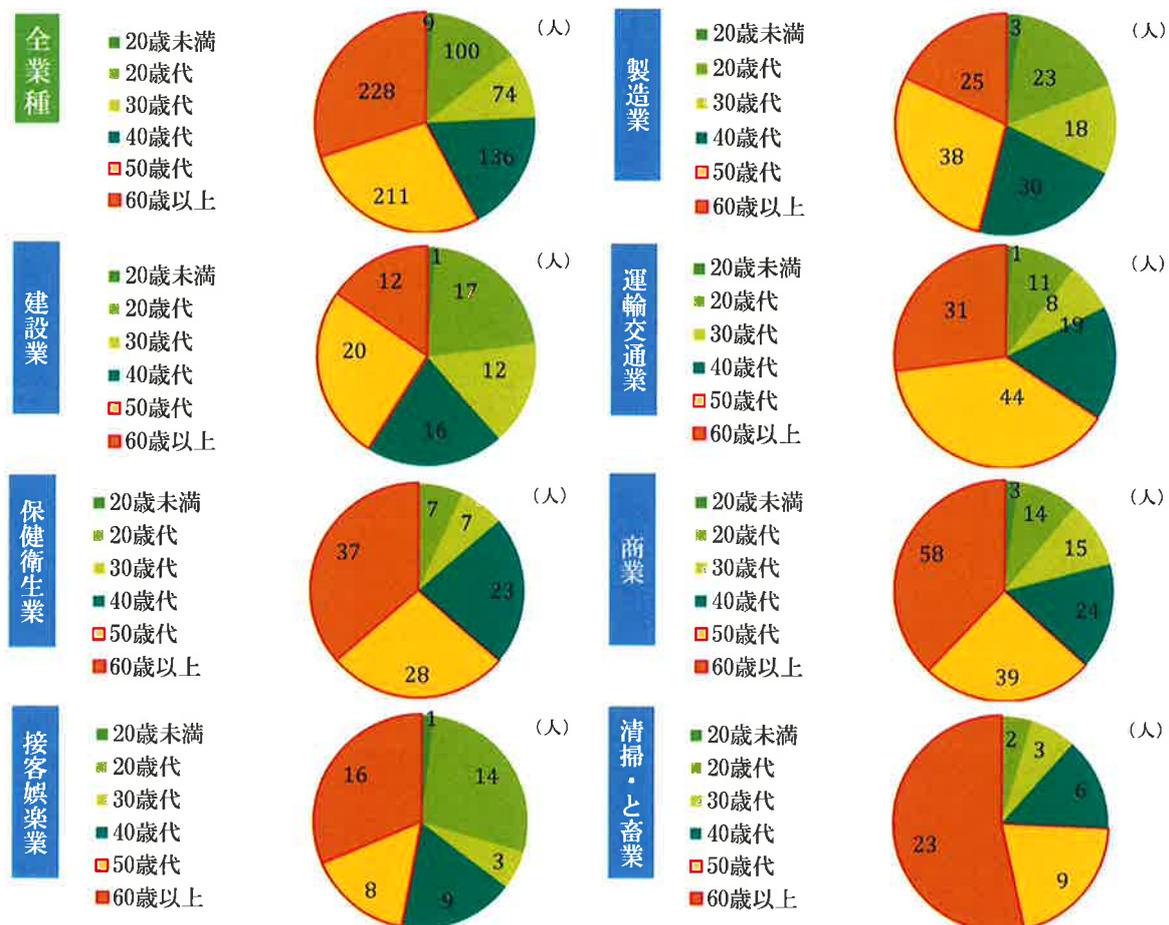
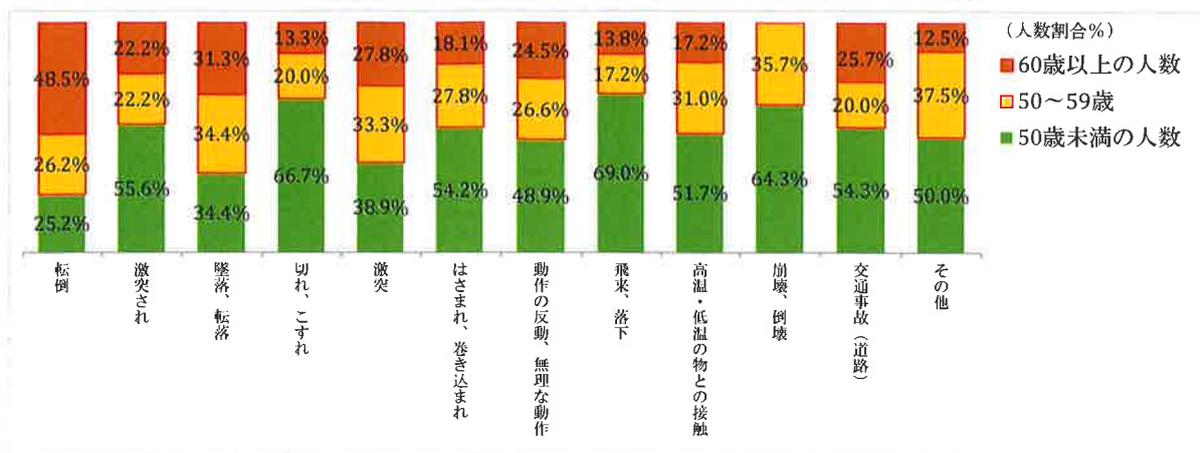


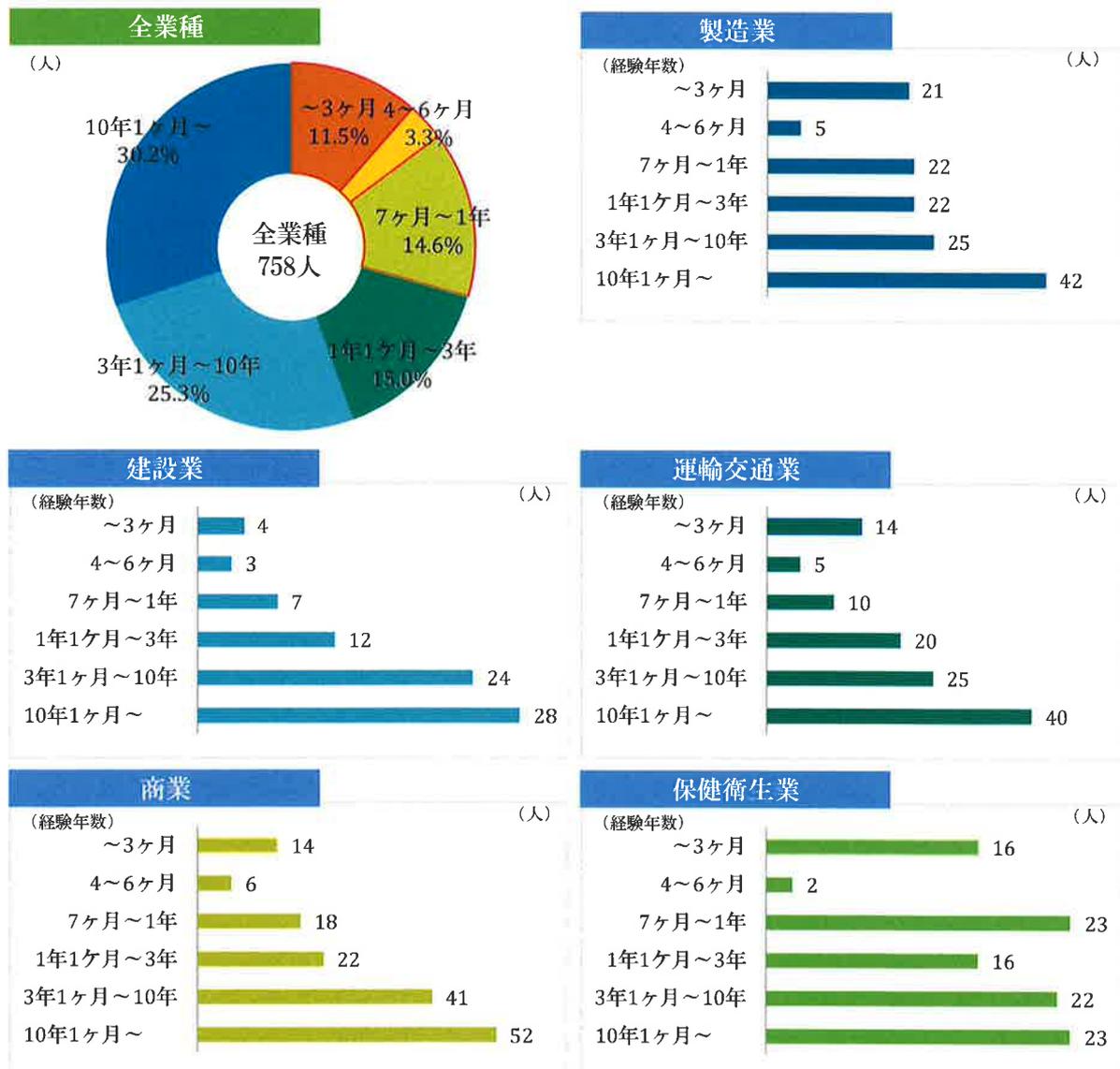
図9 事故の型別 全体に占める50歳以上の被災労働者数の割合



8 主要業種別経験年数別発生状況（以下コロナ関連を除く）

経験年数別に見ると経験が1年以下の被災者数は、全体の29.4%を占めている。（昨年と比較して29.6ポイント減少）また、3年以下の被災者数は、全体の44.4%を占めている。

図10 業種別 経験年数別の労働災害発生状況



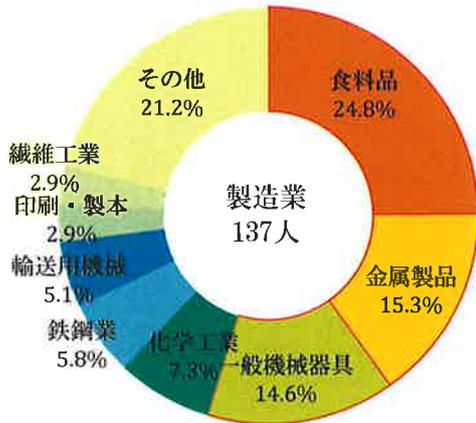
9 主要業種別事故の型別発生状況（以下コロナ関連を除く）

製造業

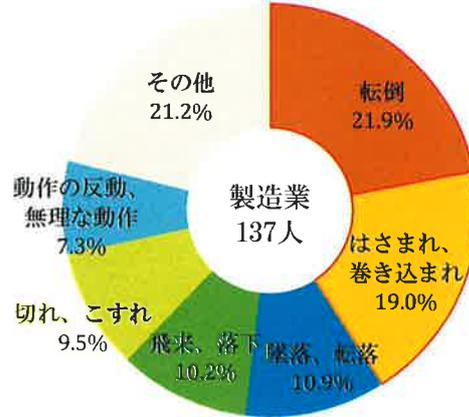
製造業の小分類別では、食料品製造が前年よりも5人増加し、34人（製造業に占める比率24.8%）と最も多かった。次いで、金属製品が21人（同15.3%）、一般機械器具製造業が20人（同14.6%）となっている。なお、死亡災害は金属製品で2件発生している。

事故の型別では、作業床や通路等での「転倒」災害が30人（製造業に占める比率21.9%）と最も多く機械等による「はさまれ・巻き込まれ」災害が26人（同19.0%）、次いで階段やはしご等からの「墜落・転落」災害が15人（同10.9%）となっている。

図11 製造業における労働災害発生状況



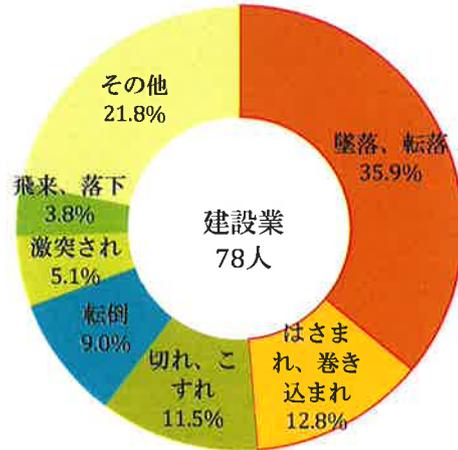
製造業死傷者数の事故の型別



建設業

事故の型別では、高所等からの「墜落・転落」災害が28人（建設業に占める比率35.9%）と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」災害が10人（同12.8%）、「切れ、こすれ」災害が9人（同11.5%）、「転倒」災害が7人（9.0%）及び「激突され」災害が4人（同5.1%）、「飛来・落下」災害が3人（同3.8%）となっている。なお、死亡災害は発生していない。

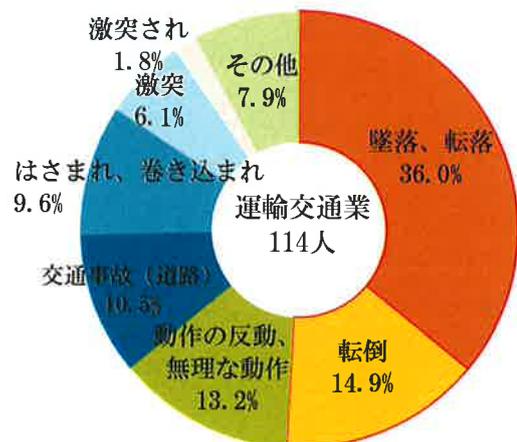
図12 建設業死傷者数「事故の型」別発生状況



運輸交通業

事故の型別では、トラック荷台等からの「墜落・転落」災害が41人（運輸交通業に占める比率36.0%）と最も多く、次いで、通路、作業床に起因する、「転倒」災害が17人（同14.9%）、「動作の反動・無理な動作」災害が15人（同13.2%）、「交通事故」災害が11人（同10.5%）、「はさまれ・巻き込まれ」災害が11人（同9.6%）、「激突」災害が7人（同6.1%）となっている。なお、死亡災害は道路貨物運送業で1件発生している。

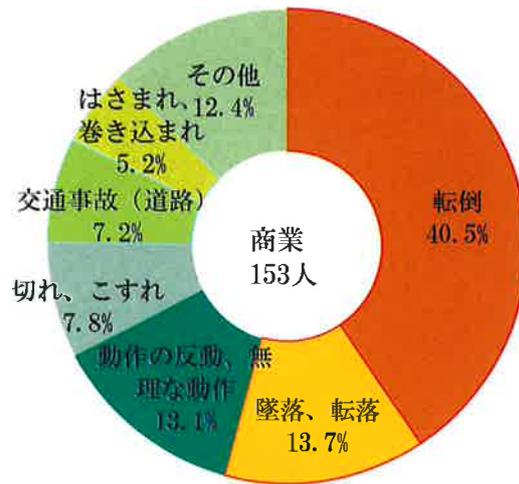
図13 運輸交通業死傷者数「事故の型」別発生状況



商業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が62人（商業に占める比率40.5%）と最も多く、次いで、階段、脚立、トラック等からの「墜落・転落」災害が21人（同13.7%）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が20人（同13.1%）、「切れ・こすれ」災害が12人（同7.8%）、「交通事故」災害が11人（同7.2%）「はさまれ、巻き込まれ」災害が8人（同5.2%）となっている。なお、死亡災害は発生していない。

図14 商業死傷者数「事故の型」別発生状況



保健衛生業

事故の型別では、介護作業、荷姿の物などを起因とする腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が33人（保健衛生業に占める比率32.4%）と最も多く、次いで、「転倒」災害が29人（同28.4%）、脚立等からの「墜落・転落」災害が18人（同17.6%）となっている。なお、死亡災害は発生していない。

図15 社会福祉施設・病院等死傷者数「事故の型」別発生状況

